

個人山行 霞沢岳（2945.6m）

2013年5月12～15日（日～水）

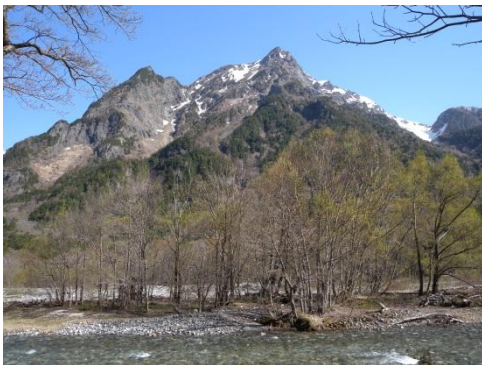
参加者：鳴原、岡本（記）

<行程・時間>

- 5月12日 19:00鳴原邸発→24:00平湯温泉（車で仮眠）
- 5月13日 6:30平湯温泉→7:00上高地→7:55明神館前→10:20徳本峠→11:30宿营地
- 5月14日 6:00宿营地発→7:00ジャンクションピーク→8:25崩落地点→9:45K1ピーク→11:05霞沢岳山頂（約1時間休憩）→13:50尾根崩落地点→15:35宿营地
- 5月15日 6:15宿营地発→6:30徳本峠→7:22白沢出合→7:28明神館前→8:30上高地バス停→9:00バス→9:30平湯温泉（風呂）→10:50平湯温泉発→19:30鳴原邸

深夜に平湯温泉に着く。始発のバスまで時間もあり車の中で仮眠だ。始発バスは6時半なのでゆっくり休める。

朝バスに乗り上高地に入る。快晴で、人も少なく気持ちの良い朝だ。少し休んで出発するが、久々のテント担ぎでザックの重みがずっしりと肩に掛かる。バテないようゆっくりと歩き出す。少し歩くと段々に重さに慣れ、明神館までは平坦な道でもあり、段々に調子が出てくる。朝日に映える美しい

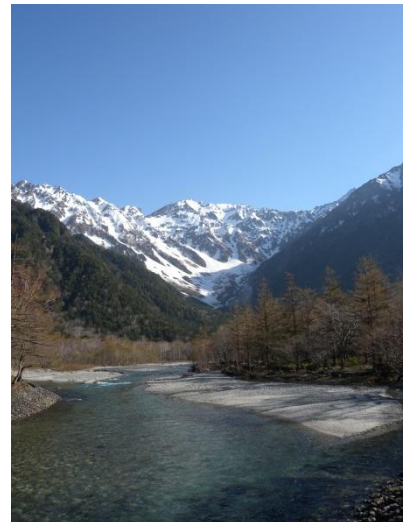


明神岳見ながら歩いていると、あっと言う間に明神館に着く。少し休み、徳本峠へ向かう。

分岐の白沢出合は直ぐ近くで、そこから徳本峠を目指す。芽生え始めた新緑と、鳥のさえずりを聞きながら進んでいくと、やがて雪道になる。

ルートはほぼ一直線に沢を詰める感じだ。徐々に傾斜がきつくなり、汗がどっと出るようになる。前から人が来る。徳本峠小屋の関係者らしい。雪にはまり込まないように注意を受け、聞くと小屋は営業しているとのことであり、少し安堵する。

真っ直ぐ、黒沢の雪渓をどんどん登り詰めていき、あっと言う間に高度を稼ぐ。少し苦しいが効率的なルートだ。峠に近づいた辺りで雪渓にロープが張ってあり、そこから少し巻くようにして登る。どうやら商魂逞しく直接小屋へ誘導するようになっているようだ。登り切るとそこに徳本峠小屋がある。3時間余りと、ほぼ予定通りだ。時代掛かった古びた小屋をそのまま素通りし、夏山ルートの尾根筋と沢の分岐点辺りまで行き、そこでテントを張る。テントを張り終えてもまだ11時頃だ。することも無く、昼間から酒盛りを始める。そのまま夜までゴロゴロする。



二日目も好天気だが、昨日より少し霞んでいる。朝食をしていると、3人のパーティーがテントの横を過ぎて行く。食事も終わり準備し終わると既に6時だ。少し急がないといけない。ジャンクションピーク越えに意外に苦戦する。急斜面の上に、木の根の上に積もった雪に足を取られ、時には股間まで沈み込んでしまう。少し行くと前の3人のパーティーに追いついた。ここからは我々が先頭になり、更に負担が増す。

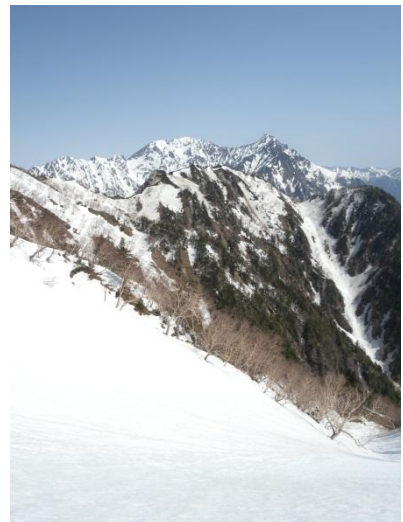


鳴原さんは昨日の昼から飲み続けで調子が今ひとつだ。それに何故か喉が渇く。適当に水分補給しながらジャンクションピークを越す。ここからは比較的なだらかな下りが続く、その後はアップダウンの繰り返しだ。少し気を抜くとシャーベット状の残雪に足が捉えられ、身動き出来なくなる。時間以上に体力を消耗する。

暫く行くと尾根が自然崩落している地点に着く。そこから霞沢岳がよく見えるが、景色より山頂までの負担が重く感じられる。ここまでは、しんどいものの概ね予定範囲内であったが、ここからが苦戦の連続だ。

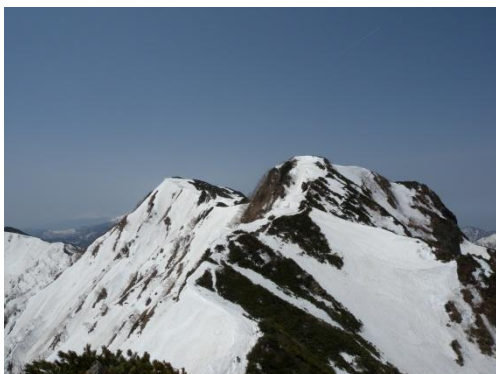


前にK1ピークらしきものが見えて来る。なだらかに見えるが、近づくとかなりの急斜面だ。重い雪に足をとられながら、急斜面を刻みながら登る。が、中々



前に進まない。ピークに近づくと更に傾斜がきつくなり、段々足取りが重くなる。好天気と穂高連山が少し苦痛を和らげてくれるが、しんどさが増してくる。喉も渇く。

漸くK1に辿り着く。穂高連山が美しい。前にK2ピークと霞沢岳がよく見える。霞沢岳まで夏タイムで25分程なので30~40分もあれば十分着くかと思ったが、甘かった。K1ピークを越すといきなり急な雪斜面になる。ここでストックからピッケルに切り替え、慎重に下る。今度は断続的に、雪の下が榛松や空洞になり足が取られるところや、雪庇や岩が剥き出しのところがあり、非常に歩き辛い。見た目とは違い、実際に歩いて見ると中々きつい。結局、霞沢岳まで1時間20分程掛かってしまった。



最後の雪庇のような雪の緩斜面を登り切ると山頂に出る。乗鞍や御岳も綺麗に見える。11時も過ぎていているところなので、山頂でゆっくりと昼食を取る。

頂上で休んでいると、K1ピークに人影が見える。多分追い抜いた3人のパーティーのようだ。しかし、そこから動こうとせず、暫くすると影が消えた。どうやら霞沢岳は断念しK1ピークから引き返したようだ。



十分な休憩を取り12時頃頂上を出発する。雪の状態も良くなく、急斜面も多く慎重に下りる。特に、K1ピーク前後が悪雪の急な登り下りになるため危ない。一步一步確実に足場を確保しながら進むと予想以上に時間を消耗する。難所を乗り越えると尾根の自然崩落地点に着く。ここまで来ると危ない場所はないが、今度はジャンクションピークまで、アップダウンをくり返しなが、200m近く登らないといけない。疲れた体には、緩やかな登りでも結構こたえる。嶋原さんは酒も抜け、調子よく下りていくが、中々追いつかない。おまけに、所々で雪に足を取られ身動き出来なくなり、その分遅れる。

ジャンクションピークからの下りも、悪路が続く。雪と木の根に足を取られながら、急な斜面を下って行く。登りのときは朝一番だったので余り感じなかったが、体力を消耗する中々嫌らしい道だ。しかし、ここを下りきったところにテントがあり、もう登りはない。一気に下り、缶ビールを雪で冷やし乾杯する。



最終日は、ゆっくりとスタートする。テントの場所から真っ直ぐ黒沢を下りることも出来るが、前日拾ったカメラを小屋に届けるため、一旦徳本峠小屋まで行く。そこからは一気の下りで、走るように雪の上を進んでいく。1時間も掛からず明神館に到着する。そこでビールを買い乾杯だ。上高地のバス停まで行き、バスで平湯温泉まで行く。平湯温泉でゆっくり風呂に浸かり疲れを癒やす。天候は3日間とも晴れで、中々楽しい山行だった。

以上